

須磨区会

気力と勇気をもった 看護ボランティアに参加して 福6 須 佐々 信義

須磨区友が丘にある神戸大学医学部の看護学専攻の3回生を対象にした「老人アセスメント演習」が昨年夏に行なわれました。私たち須磨区会のメンバー6名が老人役として参加する機会を得た。この活動は須磨区会が6年間続けている奉仕活動です。

担当教授から今回の授業のねらいとして、老人世代の生活体験や交流に乏しい学生に、この体験学習を医療人としての望ましい態度を涵養に役立てるよう指示がありました。



老人アセスメントに参加した看護学専攻の学生さんと須磨区会の会員

過去の実績からこの演習を重要な柱と位置づけています。具体的には、個々のボランティアのありのままの日常生活の様子、現在の心身状態、また老化を自覚する身体的な変化等について、学生たちとの会話を通して感想や意見を率直に伝えてほしいとのことです。対話時間は一人30分と決められていたのですが、私は予定時間をオーバーして、予備時間まで使い切る羽目になりました。

初日は定刻30分前であったが、校舎入り口にはすでに学生たちが待ち構えていて笑顔で出迎えてくれた。私は2日間で5名の学生を担当した。彼らの出身地が長野、京都、奈良と県外からの学生が多いのに驚きました。

多少の違いは見られるものの5名すべてに共通していえる事は言葉使い、態度も礼儀正しく真剣さが伺えた。加えて自分が目指す職業の担うべき使命をしっかりと見据えた言動に

兵庫区会

兵庫区会も会員相互扶助をスタート

早速、引越しのお手伝い第1号も 音2 兵 宮城 智子

明けましておめでとうございます。兵庫区会でも、西区会に引き続いて昨年末から会員相互扶助ネットワークをスタートさせました。本年はグループわにとりましても10周年を迎えるわけですが、同じく兵庫パンジーの会も1期生の先輩が設立されてから早くも10年を迎えます。

カレッジを卒業してから兵庫区に住む者が親睦を深めながら、たまたま大震災を在学中に経験したこともあり、建学の精神である「再び学んで他のために」に丁度はまったとも言える

時期でもあったので、在学中からのボランティアがごく自然に続ける事ができています。

お蔭で会員みんなが仲よく、横の連絡もスムーズになり、ボランティアの要請に協力していただいています。お互いに加齢が進み、今後は「遠い親戚より近い友人」ではないか？との話が出ていました。

ちょうどその頃に前区会長、竹田昭一氏より、グループわでも会員相互扶助を計画しており、各区会でも協力してほしいとの要請があつたとの報告がありました。さっそく66名の会員からアンケートを行い、実施に向けての意見の集約をしました。

紆余曲折を経ながら二度目のアンケートで50名から何らかの支援活動をしてほしいとの回答を得ました。昨年末に漸く、電話・FAX・メールによる「会員相互扶助ネットワーク連絡簿」を作成、会員夫婦が自分の能力に応じて出来ることを登録してもらいました。

折りしも、この完成の少し前に引越しをされた会員が居られ、近くの会員に直接に依頼を受けて、引越しのお手伝いをされたという相互扶助第1号が実現しました。それはお互いの親睦がなされた結果だと思えます。

また会員相互扶助については退会された人にも連絡表を配布し、いつでも利用を呼びかけています。先日退会された人からお悩みのお電話があり、弁護士の紹介依頼を受けました。区役所に相談の日を尋ねてみてはと、お話のみ聞いてあげました。

いまは、未だ元気だから外部からの依頼に応じてボランティアができるとしても、何時、助けて！と悲鳴を上げる立場にならないとも限りません。お互い助け合ってゆきたいとの会員各位の気持ちが通じたのではないのでしょうか。せっかく縁があつて、同じ兵庫区に住んで居る者同士がこれを有意義に利用して欲しいと思う次第です。

しばしば接し、感動すら覚えたことを忘れる事はできません。

昨今の医療、看護保険制度の改悪のひどさには、強い怒りと憤りを感じるのですが、今度の演習に参加して、看護の現場には命を託すに十分な若者が育っている姿に触れ、一途の光明を見た思いです。これまで胸のうちにあったモヤモヤした気分を吹っ飛ばしてくれるエネルギーとなり、何よりの成果でありました。

これまでは医療問題にふれる場合、常に患者側に足をおいた価値判断が多く見られました。これからは医療現場での仕組み、環境の変化に注意深く関心を持ち続け、彼等の職場環境を守ることが何より肝要であります。今回の体験で「気力と勇気」を合わせてもらう結果となり喜びを感じています。

最後に関係者の皆様に、感謝の気持ちをこめて「ありがとう」の言葉を贈ります。